

年末の風物詩のひとつである「現代用語の基礎知識 選 ユーキャン新語・流行語大賞」。今年の年間大賞は、プロ野球で史上最年少の三冠王となった東京ヤクルトスワローズの村上宗隆選手の呼び名である「村神様」にきましたね。

また、『三省堂 辞書を編む人が選ぶ「今年の新語2022」』の大賞には、デジタルネイティブのZ世代を象徴する「タイパ (タイムパフォーマンス)」が選ばれています。

2023年にはどんな言葉が生まれるか楽しみですね。来年も本DMをよろしく願っています。

パイプシステム通信 編集部

新TVCM

「Making a River.」篇

11月22日から弊社の新TVCM「Making a River.」篇が放映されています。本CMは、サッカーワールドカップの開催地であるカタールが舞台となっており、「世界の人々に安心・安全な水を届ける」という弊社の使命を表現しています。

GENEX

施工性向上・コスト低減・長寿命

ハザードレジリエントダクタイル鉄管 (HRDIP) のひとつであるGENEX (GX形) は、【施工性の向上】【管路布設コストの低減】【長寿命】が特長で、NS形ダクタイル鉄管と同等の耐震性を確保しています。

直管・異形管は小口径から中口径 (口径75~450mm) までラインアップしており、バルブ類も拡充しているので、管路として高い耐震性と長寿命を実現しました。バタフライ弁は、呼び径300mm以上でウォーターハンマー軽減に効果のある「充水弁体型」やキャビテーション抑制機能を有した「整流弁体型」等の製品もご用意しております。

管路の布設・更新をご検討のお客様は、GENEXシリーズのラインアップ製品で耐震管路を構築することをおすすめします。

ご興味ございましたらお気軽に弊社営業担当者までご連絡ください。

GENEXシリーズ	対象口径
直管・異形管・付属品	75~450
ソフトシル弁	75~400
バタフライ弁 (普通弁体・充水弁体・整流弁体)	300~450
フランジレスT字管	75~250
メタルシート仕切弁	75~250

【寄稿】

盛岡市における水道管路工事の入札不調対策について 盛岡市上下水道局 水道建設課長 山路 聡

盛岡市における水道管路工事の入札不調不落発生率は、平成26年度には53%まで上昇し、平成30年度までの5年平均は48%でしたが、様々な取り組みによって改善傾向が見られたので、本市の不調対策の取り組みについて参考まで紹介します。

当時の入札不調の背景として工事業者は、①交通誘導員や配管工といった下請け全体の人員確保が困難②難易度の高い市街地は敬遠し、給水管の切替数が多い現場は効率が悪いなどの理由で避けることがありましたが、それは会社の存続が最優先という厳しい現状にあるからでした。このような状況から、早急に改善すべきポイントとして、以下二点の取り組みを実行しました。

一つ目に「100年先までを見据えた水道施設整備構想をつくる」ことを掲げ、「もりおか水道施設整備構想 (H17年)」を100年構想として26年に全面改訂したほか、職員定数の増を要望し、27年度と28年度に1名ずつ増員しました。

二つ目は「地元業者に今後の整備方針を理解してもらうこと」であるとし、令和元年6月に水道施設工事甲A全20者のうち16者 (過去3年間に受注実績有) を訪問して、経営者との意見交換を行いました。100年構想概要版や当局の決算書などを持って、長期耐久性を誇るGXダクタイル鉄管等を採用することで、100年に一度の更新サイクルによる、更新率1%の安定した工事発注ができること、浄水場の休止など安定経営につながるダウンサイジングを行うことを説明し、100年後も両者の事業継続を可能にするビジョンを提示することで、今こそ水道工事に力を入れるタイミングだと訴えました。

経営者の方々からは前向きな感想を頂いたほか、前述した不調理由の他に、配管工の不足や高齢化が大きな課題と認識していること、市街地工事は通常積算と実費に乖離があり儲けが少ない一方、比較的容易な郊外の工事は利益が出やすいことなど、多くの声を聴くことができました。地元業者との意見交換を踏まえ、以下の取り組みを進めました。

- 1.更新率1%の実現 (長期的に安定した工事発注)
- 2.債務負担行為や繰越制度による施工時期平準化 (閑散期の施工確保)
- 3.施工場所や難易度の違う工事の合併発注 (施工難易度の平準化)
- 4.道路改良工事などの合併発注 (施工効率の向上)
- 5.入札情報を格付等級各者へFAX送信 (確実な情報発信)
- 6.工事関係書類の簡素化や電子化の推進 (事務作業の軽減)

これらの取り組みを進めていくと、こちらの本気度が伝わったのか、工事の入札不調不落発生率は改善の方向に変わり、令和元年度には28.6%へと減少、令和2年度以降は5%台と大幅に減少しました。

一方で、入札の参加業者数をみると1社による入札も未だ多く、今後も新たな改善策を提案し続けていかなければならないと感じています。水道の安心・安全を守るためには、地元業者の災害対応力を将来にわたって確保していくことが大切です。長期的に安定した工事発注ができれば、地元業者も安心して協力してくれるはずで、まずは本気で対話することが入札不調対策への突破口になると私は考えます。